小山田小

２０２４年９月２日
５号

町田市立小山田小学校
校　長　　小澤　新也
042(797)1824
https://machida.schoolweb.ne.jp/1310200

かつて戦争があった

校長　小澤　新也

校長室にある本棚に「町田市史」をいう分厚い本があります。町田市史編纂委員会が編集し、町田市が昭和 51 年３月に発行したものです。上下巻に分かれていて、併せて 3400 ページにもなる立派な本です。

太平洋戦争が終結して 79 年になります。この戦争は当時の子どもたちにどのような影響があったのか、町田市史には次のような記載がありました。

「小学校は国民としての最低の知識、理解力を学習する場である。無謀な戦争は子供たちに静かな学習の場を与えずしゃにむに子供たちのもつ体力、生活力を食糧増産の国策遂行にかり出してゆく。子供は個人の完成どころか国家の、戦争遂行の手段としてしてしか存在しえなかった。」（第３章 15 年戦争と町田 より）

戦況は思わしくなく、サイパン島が陥落した後、B29 による軍事施設・軍需工場・大都市への爆撃は避けられないと判断した政府は、昭和 19 年６月に学童集団疎開を決定します。首都東京に住めば生命や財産を失う危険性が高く、また食料を手に入れることも難しくなってきたからです。子どもたちは戦争の足手まといになるのです。

当時東京都は区ごとに疎開先を定め、地方に住む親戚等に頼ることのできない児童の集団疎開を始めます。多摩地区は主に品川区立国民学校の学童集団疎開先に指定されました。忠生村でも学区内にある大泉寺や養樹院はじめ、５つのお寺に 200 名以上の児童が親元を離れ、慣れない土地での疎開生活を始めたと記録に残っています。

「大泉寺学りょう」　　鈴ヶ森国民学校三年　長尾　敦子

わたしたちのそかいしてきた大泉寺は、大きくてりっぱなお寺です。赤い屋根の山門と二かいのついた山門と二つあって、そこをくぐって石だんをのぼるのです。はじめはお友だちが八十人もいましたが、いまは六十人になりました。それでもほかのお寺よりもおおぜいですからとてもにぎやかです。みんななかよくしています。

お寺は山の中にあるので、まわりは赤い大きな松が生えています。前と後ろにお池があって、こいやふながいます。夜になると、しょくようがえるがブウブウと大きな声でなきます。ひるでもなきます。はすのねっこから、へんなかおをだしてブウブウとなきます。三びきくらいいっぺんになきますから、やかましくて、はじめはねむれませんでした。もうなれました。ときどきお寺にとまっている兵たいさんがつってたべますけれど、またどこからかやってきます。（後略）

今年も８月１５日には日本政府が主催する戦没者追悼式が日本武道館で執り行われました。正午の時報を合図に、第二次世界大戦で亡くなった全ての人々に対する慰霊と、再び戦争の惨禍を繰り返さないという思いを胸に黙とうを捧げました。

８年前に亡くなった私の母も兄を先の戦争で亡くしています。毎年８月１５日になると NHK のテレビ中継を見ながら静かに黙とうをしていた姿を今でも思い出します。

今、私たちが平和に暮らすことができることに感謝するとともに、ユネスコスクールに認定された小学校として、あらためてユネスコ憲章に書かれた、地球市民として一人一人が「心に平和の砦を築く」ことを意識できる教育活動（平和教育、人権尊重、いじめ対応等）を大切にしていく思いを強くしました。